中部発

「赤頭巾」読めるよ

大津の幼稚園／京都精華大生

童話題材に漢字絵本

大津市の聖パウロ学園・瀬田光泉幼稚園と京都精華大（京都市左京区）が、共同でオリジナルの漢字絵本を作っている。すでに「大きな力ブ」「北風と太陽」など九作が完成。学生たちが描いた楽しい絵柄と漢字の組み合わせがユニークだ。

同園は、幼児期から漢字を読む力をつけようと、漢字教育に力を入れている。既成の絵本の多くの文字は平仮名が使われているため、国内外の昔話を題材に、常用漢字を使った文章を載せた絵本を企画した。

絵柄をバラエティー豊かにと京都精華大デザイン学部の学生に昨年春、挿絵を依頼。大学側は社会連携事業として引き受け、角谷和好教授（グラフィックデザイン）の監修で、学生が一人一冊ずつ二十ページ分を描いた。登場人物の表情や色合いが愛らしい「赤頭巾ちゃん」、コミカルな絵柄の「おむすびころりん」…。多彩な絵本が続々と完成している。

バラエティーに富んだ絵柄が楽しい漢字絵本

学園理事らが二月に、学生たちに会いに出掛け「斬新なデザインの絵本ばかり。子どもたちも喜んで漢字を覚えています」と感謝を伝えた。園側の要望で「三匹の子豚」を何度も描き直した垣内翔太さん(二)は「苦労した分勉強になり、絵もうまくなった」と笑顔。レイアウト担当の学生も「文字の大きさに注意して楽しくかわいく見せられるように頑張りました」。

漢字絵本は全三十作の予定。個人向けではなく、教材として他園にも売る。問い合わせは「ジューン・ファースト」＝電077（564）9860＝へ。

取材後記

幼児に漢字を教えるなんて大変そう。そんな思いで取材を始めたが「子どもたちは物語の中で、漢字を絵や記号のようにとらえてゲーム感覚で読みを考え、覚えていく」と幼稚園側。目を輝かせて漢字絵本を読むそうだ。

プロ顔負けの、大学生によるユニークな絵柄も園児に好評。読み手の子どもの気持ちを考え、苦労して描いたものばかりといい「自分の絵が印刷物になってうれしい」と語った学生の笑顔も印象的だった。（芦原千晶）

2月27日付 びわこ総合版から